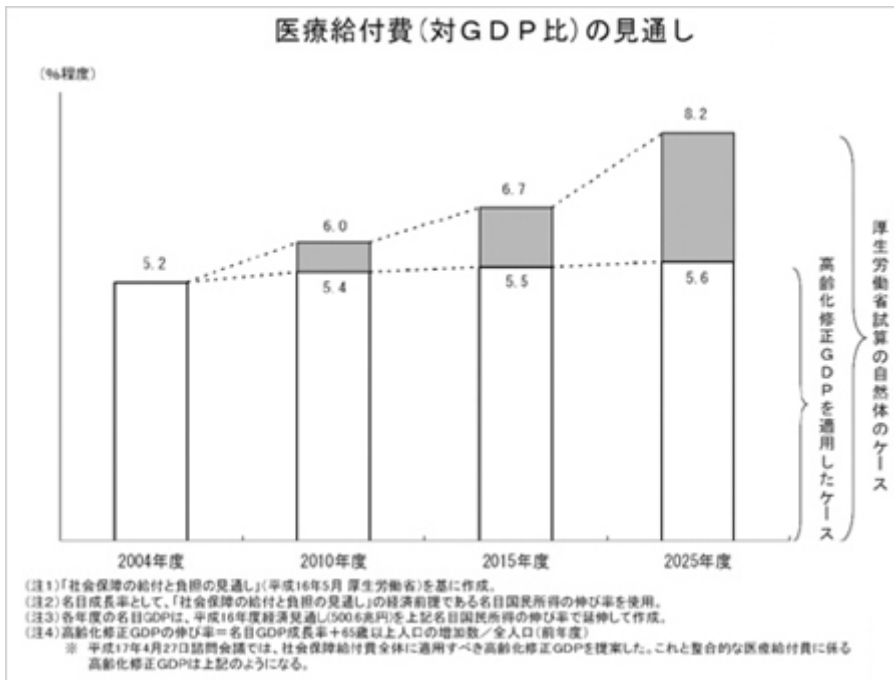


# マジシャンの白いハンカチ

投稿者 日本医療総合研究所 取締役社長 中村 十念

医療費の管理目標論議が盛んである。内閣府の経済財政諮問会議は高齢化修正GDPの伸び率を管理指標にしようとする魂胆である。それに関連する竹中内閣府特命担当大臣(経済財政政策)兼郵政民営化担当大臣の記者会見も行なわれた。その時、配布された資料のひとつが、私が「マジシャンの白いハンカチ」と呼んでいる資料である。(表1)

〈表1〉 ※ 内閣府経済財政諮問会議資料



※ 画像をクリックすると大きい画像が表示されます。

〇・〇%という数字が7つ並んでいるだけで、ほとんど真っ白である。これだけ見せられたのでは、何のこともわからない。パーセンテージであるから、分母と分子があるはずである。分母は名目GDP、分子は医療給付費である。それをお見せすると次のようになる。

〈表2〉

単位: 兆円

	2004年度	2010年度	2015年度	2025年度
名目GDP(分母)	500.6	566.5	613.3	718.8
高年齢化修正GDP適用ケース				
医療給付費(分子)	26.0	30.3	33.8	40.3
GDP比	5.2%	5.4%	5.5%	5.6%
厚生労働省試算ケース				
医療給付費	26.0	34.0	41.0	59.0
GDP比	5.2%	6.0%	6.7%	8.2%

普通、資料を出すときは、データ算出の根拠を出すものである。しかし、この資料からは、データが完全に消されている。自分で計算しろということになっている。何故だろう。それは、分母(名目GDP)を示すと、それを内閣府が公約したと受け取られるからではないか。

GDPは、向こう20年間で200兆円以上も伸びる計算になっている。10年間では100兆円以上である。この10年間のGDPの伸びはわずかに20兆円に過ぎないことを考えると、内閣府には、それを公約する自信があろうはずがない。出してしまうと、医療費の伸び率管理どころか、GDP伸び率管理に大童になりかねない。だから出せない。

いわば空想的GDPをもとに算出した医療給付費も、なかなかの水準である。  
(給付費であって医療費でないことに注意。給付費 $\div$ 医療費 $-$ 自己負担)給付費  
で2015年に33.8兆円というのは、見方によっては、魅力的な数字である。向こう10  
年間で7.8兆円伸びる計算になるからである。

ちなみに、この10年間で給付費は4.7兆円程度しか伸びていない。それに比べ  
ると3兆円以上の高い伸びとなる。これもとても公約できる数字ではないので、出  
さないのである。経済財政諮問会議が欲しいのは、GDPが減ろうが増えようがお  
構いなしの名目GDP比5%台ということだけ。分母・分子は消さなければならない  
のである。だから、マジックなのである。

ほんとに小泉内閣はマジックが大好きだ。